

あとがき

『柳津町誌』は約二十年前にその産声をあげた歴史がある。その間編集委員長として、生涯の情熱を捧げられ、貴重な資料を残して既に黄泉の客となられた佐々木鼎氏、又志中途にして過労の為に病床に伏された佐藤栄喜前委員長に本書を捧げて、その労に酬いたい。

更に昭和三十七年三月、今は何れも故人となられた、佐藤栄一氏・増井源蔵氏・渡部文喜氏等によって結成された柳津町史談会の活躍が今回の町誌完成に大きな原動力であったことを忘れてはならない。

こうした人々のあとを受けて、残された編集委員一同、再起不能の状態にまで追込められる過程を辿ること一再ではなかった。その後編集委員の再編成やら方針の変更やら、険しい道を細々と歩み続けてはいたが、一向に進捗を見ない状態の連続で解散同然の時もあった。然し苦節十年、地味ではあったが有志による資料の蒐集、集落に飛び込んで古老を訪れ、その民俗に触れ、歴史に接し、町誌編集の温床の灯は牛の歩みではあったが保ち続けられたのであった。

昭和四十九年四月、会津高田町の地方史研究家大越大雄氏に編集主筆を懇願したところ、多忙な予定を変更までして快諾され、ここに町誌編集の灯は、大きな狼煙となり、編集委員には山内諦教・為田光意・伊藤一義・海老名俊雄・羽賀十市・田崎武男の六名があたりその事務局を教育委員会におき、従来の資料を整え、目次の編成等愈々調査・集録に着手したのは、同年五月であった。

大越主筆はほとんど毎日の如く会津高田町の自宅より炎暑・酷暑をおかし、部落の隅々まで歩き資料の蒐集にあたって編集委員を督励指導された。これに呼応して編集委員も時には夜の一時・二時までペ

ンを執ることも一再ではなく、眼薬を点滴して原稿用紙に向うときもあり、又公務を持つ身で、どうしても無理になり胃を害して吐血する編集委員もあった。然し町民の支援と、町当局並びに町議会の方々の理解、特に春日町長は、これが完成に情熱を燃やされ、編集委員一同大きな力を得て着々と進捗するに至った。編集会議も毎月開催し、昭和四十九、五十年の二か年間全体の体裁を吟味して、昭和五十一年三月、大綱の見通しがついた。

編集方針として、多分に地誌的な内容を持つので標題は『柳津町誌』とすることにした。全体を上・下二巻とし、上巻を総説篇、下巻を集落篇に大別し、集落は河川の流域毎にまとめて配列し、集落にその歴史の足跡を刻する記念碑の石ぶみをすべて記載した。原稿は大越主筆が監修して、柳津町歴史年表をまとめた。また、原稿印刷の校正に当られた郷土研究者五十嵐勇作氏のご苦労と、最新の技術を駆使して印刷に当られた丸八商店主佐藤彦八氏のご尽力に対して、心より感謝を申し上げます。かくて種々の紆余曲折はあったが柳津町合併二十周年の記念すべき年に完成を見たことに大きな意義を認めたい。最後に、貴重な古文書・資料等を快よく貸与された方々並びに、この事業に少なからず御協力を賜った方々の御芳名を付記させて戴き謝意を表する。

御協力を賜った方々(敬称略・順序不同)

(横 浜 市) 猪股 恒三

(会津坂下町) 戸内 允・鈴木 進・山内 強・井関 敬嗣

古川 利意・佐藤 一良

(会津若松市) 東北電力事務所、小滝 利意

(三 島 町) 角田 伊一・小柴 吉男・片山 信雄

- 〔寺家町〕 小川 トメ・水野 興宗・鈴木 静作
- 〔岩坂町〕 矢部 四郎・金坂 富仙・小池 新吉
- 〔諏訪町〕 月本ハル子・長谷川美材
- 〔門前町〕 桜本 コウ・大竹 敬宗・藤田 栄真
- 〔一王町〕 佐藤 忠彦・故佐藤栄一・故渡部文喜・石川 彦一
山名 睦・渡部 長次
- 〔天平町〕 橋本民一郎・上田マチノ
- 〔藤〕 齋藤 淳・長谷川梶衛・笠間 新八・五野井四郎
- 〔石坂〕 岩淵 清司
- 〔野老沢〕 齋藤 豊・齋藤 文雄・長谷川文一・目黒 忠威
新井田清光・目黒 昭
- 〔樺〕 渡部 新一
- 〔軽井沢〕 渡部 正一・古生 一郎
- 〔塩野〕 田村 嗣次
- 〔長倉〕 目黒 重夫
- 〔新村〕 長谷川盛義
- 〔石神〕 齋藤 清美・齋藤 勇三・齋藤 弥吉・齋藤 常吉
- 〔古屋敷〕 鈴木 善彦・鈴木 廣
- 〔中野〕 田崎 芳男
- 〔出倉〕 齋藤 菊雄・小川テツ子
- 〔竜蔵庵〕 船木キヨ子・故船木亀次郎・船木 貞
- 〔安久津〕 故増井源蔵・北田 一郎
- 〔細越〕 増井彦兵衛
- 〔小柳津〕 故佐々木鼎・佐々木 清

- 〔猪鼻〕 角田 孫市
 - 〔小卷〕 新井田甚助
 - 〔芝倉〕 田崎 栄喜
 - 〔湯八木沢〕 鈴木 鉄一・鈴木 為雄
 - 〔五畳敷〕 菊地 啓次・菊地 武・猪俣 鎮雄
 - 〔砂子原〕 渡部 庸一・菊地 仁・三浦 重雄
 - 〔黒沢〕 伊藤三十郎
 - 〔胃中〕 長谷川寅雄
 - 〔天成沢〕 鈴木 哲一・杉藤 菊雄
 - 〔琵琶首〕 鈴木 勇・鈴木 一佐・鈴木 武夫
 - 〔芋小屋〕 星 栄喜・杉原 重一
 - 〔漆峠〕 鈴木 庄軒・鈴木金一郎・鈴木 留重
 - 〔牧沢〕 天野 善衛・故天野善一
 - 〔中屋敷〕 小島真之輔・小島 留次
 - 〔鳥屋〕 五十嵐義信
 - 〔遅越渡〕 小島 亀吉・小島 義美・小島 文雄・小島 岩子
 - 〔小島 美次・小島 昇・小島ミスイ
 - 〔沢中〕 菊地 晴美
 - 〔高森〕 菊地 長三
 - 〔久保田〕 佐藤 清緒・佐藤 豊進・佐藤 幸衛・田村 栄
 - 〔小野 武良・佐藤 量英・故佐藤栄喜
 - 〔松ヶ下〕 佐藤 和彦・木ノ戸栄一
- 外に各区長・檀徒総代・神社総代
- (柳津町誌編集委員長 内田伊佐雄記)



田崎武男

内田伊佐雄

山内諦教

大越大雄

海老名俊雄

伊藤一義

為田光意

羽賀十市

編集委員名簿

職名	氏名	住所
編集委員長	内田伊佐雄	柳津町門前町
〃	田崎武男	柳津町長倉
〃	海老名俊雄	三島町松原
〃	山内諦教	柳津町砂子原
〃	為田光意	柳津町門前町
〃	羽賀十市	柳津町冑中
編集委員	伊藤一義	柳津町黒沢
編集主筆	大越大雄	会津高田町仲町

町誌編集執筆担当者

<p>第一章 風土</p>	<p>第二章 歴史</p>	<p>第三章 民族</p>	<p>第四章 政治・社会</p>	<p>第一章 風土</p>		<p>第二章 歴史</p>		<p>第三章 民族</p>		<p>第四章 政治・社会</p>	
				<p>一、原 始</p>	<p>二、古 代</p>	<p>三、中 世</p>	<p>四、近 代</p>	<p>五、現 代</p>	<p>六、年中行事</p>	<p>七、民間信仰</p>	<p>八、人の一生</p>
<p>担当 内田伊佐雄</p>	<p>担当 内田伊佐雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>	<p>担当 大越 大雄</p>

<p>年 表</p>	<p>第九章 宗 教</p>		<p>第八章 教育・文化</p>		<p>第七章 観 光</p>		<p>第六章 開 発</p>		<p>第五章 交通・通信</p>		<p>章 節</p>	<p>担当 者</p>					
	<p>五、新興宗教・天理教</p>	<p>四、わが町の修験道</p>	<p>三、円藏寺</p>	<p>二、寺 院</p>	<p>一、神 社</p>	<p>二、文化団体</p>	<p>一、学校教育</p>	<p>三、観光地理と柳津天堂</p>	<p>二、奥之院の創立と弁天堂</p>	<p>一、虚空蔵信仰と観光</p>	<p>三、温泉開発史</p>	<p>二、電源開発史</p>	<p>一、鉢山開発史</p>	<p>三、通 信</p>	<p>二、主要交通路の変遷と改修</p>	<p>一、古代の交通</p>	<p>担当 者</p>
<p>大越 大雄</p>	<p>大越 大雄</p>	<p>山内 諦 教</p>	<p>大越 大雄</p>	<p>山内 諦 教</p>	<p>大越 大雄</p>	<p>伊藤 一 義</p>	<p>内田 伊佐雄</p>	<p>為 田 光 意</p>	<p>山内 諦 教</p>	<p>海老名 俊 雄</p>	<p>大越 大雄</p>	<p>為 田 光 意</p>	<p>大越 大雄</p>	<p>為 田 光 意</p>	<p>大越 大雄</p>	<p>大越 大雄</p>	<p>大越 大雄</p>

第一章 集落誌	第一章 集落誌					章									
四ツ谷 小ノ川・中野 金子平・野老沢 長窪・持寄 石椿・生石 新・村・古屋敷 中・山・石神 麻・生・芝倉 大根下・上村 竜蔵庵・二本木 柳ヶ丘・安久津 岩坂町・大平町 一王町・門前町 寺家町・諏訪町 細越・根柄巻 藤・八坂野						節									
海老名 俊雄	為田 光意					担当者									
第二章 記念碑総基	第一章 集落誌			第一章 集落誌	第一章 集落誌	第一章 集落誌	章								
	五、柳津の霊境談義	大 中 村 松ヶ下	鳥 屋 久保田	黒 沢 牧 沢	高 森	五 疊 敷 冑 中	漆 峠	琵琶首・境ノ沢	芋小屋・大成沢	湯八木沢・砂子原	長 倉 猪 鼻	軽井沢・銀山	黒 滝 塩 野	大 野 大野新田	小 卷 小柳津
内田 伊佐雄	大越 大雄	伊藤 一義		羽賀 十市	山内 諦教		田崎 武男	大越 大雄		担当者					

柳津町立図書館蔵書

昭和五十二年五月三十一日 ☆ 発行

柳津町誌 下卷

(非売品)

編集 ☆

福島県河沼郡柳津町諏訪町甲五九
柳津町教育委員会

発行者 ☆

福島県河沼郡柳津町長

春日源一

印刷所 ☆

会津若松市馬場町一番四二号
株式会社 丸八商店

印刷者 ☆

佐藤彦八

発行 ☆ 福島県河沼郡柳津町